

ウォーキング

木曾川右岸を歩いて多度へ

令和5年10月14日（土）

1. ルート 近鉄長島駅～木曾川右岸～船頭平閘門～長良川大橋～
木曾三川公園～尾津神社～養老鉄道多度駅

14.0km（20,500歩）

2. 参加者 伊藤利男・喜吉 雄・高木 勉・伝田 貢
中村 衛・中村軍志・福本 泉・濱田 一

8名

3. ドキュメント

ウォーキング参加のために自宅の玄関に出るとさわやかな匂いを感じふと見ると庭の金木犀が一斉に咲いていて秋を感じる。先月のウォーキングの時に比べて1.0℃も気温が下がり過ごしやすく歩くには最良の季節となる。長島リゾート長島温泉のある近鉄長島駅に9時10分降り立つ。JR関西線に沿って北に向かって歩くこと30分木曾川の右岸堤防道路に出る。河川敷は野球・サッカー・テニスなどのグラウンドが整備されていて多くの人たちが活用していた。40分ほど歩いたところで一休みする。



金木犀



木曾川河川敷



堤防の階段で一休み



堤防道路をゆっくりと歩く

東名阪高速道の橋脚の下を潜りさらに木曾川堤防道路を北に向かっていくと堤防の内側に「長島町輪中の郷」の案内板があったので立ち寄ることとする。資料館が設置されていたけれども時間の都合でトイレ休憩に留める。この付近は輪中と呼ばれていて0メートル地帯である。前庭に伊勢湾台風で浸水した水位のモニュメントが設置されていた。



長島町の輪中の郷

輪中とは

三角州や扇状地で氾濫原に住む人々が水害から集落と耕地を守るために誕生・発展したものである。輪中と呼ばれる必須条件は

1. 周囲を囲う堤防を持つこと
2. 集落と耕地の両方を包括すること
3. 水防組合を組織して水の統制をおこなうこと



水位のモニュメント



輪中の水屋と呼ばれる避難建物

輪中の郷で一休みした後、船頭平公園に向けて歩く。少し歩くと県境を越えて愛知県の立田町の地に入る。村中を通り辿り着いたのは長良川の左岸の堤防道路で「船頭平閘門」の水路が堤防下に見ることが出来た。



長良川につながる船頭平の水路



閘門長良川側

せんとうひらこうもん 船頭平閘門について

むかし、木曾川、長良川、揖斐川は網の目のように流れ、そこを物資を積んだ、たくさんの舟や筏が行きさしていました。
しかし、このように便利な川も、洪水の度に大きな被害を受けました。そこで木曾川、長良川、揖斐川の三川をそれぞれ独立した川にして、他の川の洪水の影響を受けないようにしました。
このような考え方は、宝暦治水（1755年薩摩藩士の御手伝普請）にもとり入れられ、更に明治改修（明治20年～45年）によって、この三川の分流が完成しました。
三川分流によって、支川が締切られたので、舟が木曾川から長良川、揖斐川に行くのには、いちいち河口へ廻らなくてはならない不便をなくするため、この船頭平閘門がつくられました。
閘門とは「水面の高さが異なる川、海などを舟が進むときに水門で水を調節して、水面の高さを一定に保つ働きをする施設」をいいます。
閘門は明治32年に工事にかかり、明治35年3月（1902年）に完成しました。



船頭平閘門木曾川サイト

船頭平河川公園でゆっくりと休憩を摂った後、愛知県立田町の輪中を進むと一面トウロコシの畑に覆われていて家畜の飼料にするのであろうことを想像して通りすぎる。



とうもろこし畑の隣は柿畑



長良川大橋

長良川の堤防に登りつめると長良川大橋の東詰に辿り着く。この道路は愛知と三重をつなぐ主要県道で木曾川の立田大橋、長良川の長良大橋、揖斐川に架かる油島大橋で形成されいつも混雑している。長良大橋を渡って木曾三川公園に向かう。公園内をひと歩きして記念撮影をする。公園内はコスモスなどの花が咲き乱れて多くの人たちで賑わっていた。



歩いたコース図



サルビア



コスモス



花畑で記念撮影



尾津神社前



尾津神社の社殿

木曾三川公園で既に 12 時となっていたので先を急ぎ揖斐川に架かる油島大橋を渡って三重の桑名市多度町に戻る。国道 R-258 を少し南下して多度駅に向かう途中に尾津神社が鎮座している。お参りをし境内の一面をお借りして昼食を摂る。

秋本番の最良の陽気の中を楽しく歩くことが出来た。養老鉄道多度駅を 14 時 42 分の電車に乗り込んで帰途に就く。